



地域の食文化・魅力を発信

ワサビ基軸に取り組み検討

梶穀組合長が会長を務める「富士山麓・伊豆半島食の魅力推進協議会」は5月29日、沼津市で総会を開き、関係者約60人が出席しました。

総会では令和5年度事業報告と令和6年度事業計画を決議したほか、当JAからは管内農産物のブランド化推進に向けた取り組みを報告。今後、同会ではワーキンググループを設置し、ワサビを基軸とした取り組みを具体化させていきます。



当JAや市町など県東部の42団体・行政で組織

「世界牛乳の日」に酪農支援

買い物客に「ミルメーク®」配布で牛乳消費促す

当JAは、依然として厳しい状況が続く酪農を支援しようと、6月1日の「世界牛乳の日」に合わせ、管内のファーマーズマーケット・直売所12店舗で地元産牛乳の購入者に対し、「ミルメーク®」と牛乳レシピ冊子など計800セットを無料配布しました。

店頭では、のぼり旗とチラシを用いてJA職員が牛乳消費を呼びかけ、全体で前週同曜日と比べて約4倍の本数を売り上げました。



チラシを配布し牛乳消費を呼び掛けるJA職員(右)



「ふじいず彩々 緑茶ボトル缶」新発売

各所でPRキャンペーン

当JAは6月10日、初の管内統一ブランド「ふじいず彩々 緑茶ボトル缶」を新発売し、SNSや各所でPRキャンペーンを行いました。

ファーマーズマーケット・営農経済センター・支店の一部では、発売日の10日から5日間、来店者や購入者に向けたプレゼントキャンペーンを実施。試飲した来店者からは「お茶の香りがおいしい」「すっきりとして飲みやすい」と大変好評でした。



「う宮〜な」店頭で来店者(左)に試飲を勧めるJA職員



しいたけ生産者大会で表彰式

しいたけ委員会の生産者が多数入賞

第61回静岡県しいたけ生産者大会が6月25日、伊豆市で開かれました。県品評会の表彰式などが行われ、伊豆の国地区のしいたけ委員会の生産者が多数表彰されました。主な賞の入賞者は次の皆さまです。

- 第34回静岡県しいたけ品評会 敬称略
農林水産大臣賞:朝香 博典
- 第73回静岡県乾しいたけ品評会
林野庁長官賞:福室 勝義(天白冬菇)、朝香 博典(茶花冬菇)
静岡県知事賞:飯田 洋(冬菇)、三枝 廣次(香菇)、石井 猛(香信)
- 令和6年度椎茸産業功労者:石井 隆一



菊地豊市長から表彰状を受け取る農林水産大臣賞の朝香さん(左)



JAふじ伊豆はSDGs「1~17の目標」につながる取り組みを行っています。

各所に記載のマークはSDGs目標アイコンです。

ふじ伊豆ブランドのレモン創出へ

ブランド化に向けプロジェクト会議

当JAは6月18日、沼津市で「第2回レモンのブランドづくりプロジェクト会議」を開きました。あいら伊豆地区・なんすん地区などレモン主要産地5地区の生産者代表の他、4月から当JAのブランディングアドバイザーを務める静岡県立大学の岩崎邦彦教授、当JA役員など約20人が出席しました。

岩崎教授は1,000人を対象に行った消費者調査結果を報告。ブランド名やブランドアイデンティティについて方向性を示し、出席者が活発な意見交換を行いました。

高木力営農担当常務は「レモンのブランド化は当JAにとって大きな取り組みの一つ。生産者と一緒になって取り組んでいきたい」と話しました。

当JAは、2か年計画・自己改革工程表の「主要品目の生産振興」の一つに「柑橘(かんきつ)」を掲げ、「レモン生産の拡大」に取り組んでいます。今後も生産体制を整備し、令和9年度までに作付面積を3ヘクタールまで拡大する計画です。



ブランド名について岩崎教授に質問する高木常務(右から2番目)

あいら伊豆地区で「畑ワサビ」初出荷

伊豆の国地区の栽培技術をトップ営農指導員がつなぐ



出荷方法を説明する日吉トップ営農指導員(中央)

あいら伊豆地区^{そさい}蔬菜部会が、昨秋から伊東市で試験栽培に取り組んでいた畑ワサビを5月20日、「いで湯っこ市場」と「河津農産加工所」に初出荷しました。

試験栽培には、当JAが意欲ある生産組織の取り組みを支援する「あぐりチャレンジ事業」の助成金を活用。すでに伊豆の国地区で確立している畑ワサビの栽培技術を取り入れるため、ワサビ担当の日吉新トップ営農指導員が講師となり、栽培から収穫までアドバイスを行ってきました。

畑ワサビは植物学上は、ワサビ田で栽培される沢ワサビと同じ品種です。沢ワサビは根茎をすりおろして使用しますが、畑ワサビは茎をワサビ漬けなどの加工用に使います。

当JAは本年度、畑ワサビの栽培面積を25.5アールまで拡大する計画です。



いで湯っこ市場に出荷された畑ワサビ



畑ワサビの初出荷を紹介した動画はこちら



草刈りシーズンも安全に 刈払機の講習会で地域向けサービス提供

ふじのみや資材館では5月25日、草刈りシーズン中のサポートと不安解消のため、希望者を募り地域に向けて「刈払機の動かし方講習会」を開きました。

農機メーカー担当者が安全な使い方やよくある故障原因などを説明したほか、参加者は実際にエンジンのかけ方を体験。参加者からは「基本から学べて分かりやすかった」と好評でした。



担当者の説明に耳を傾ける参加者



楽しく遊んで仲間づくり 子育て支援教室開催

富士地区本部は子育て世代への支援活動の一環として、未就園児と保護者が楽しく遊びながら仲間づくりを行う「子育て支援教室」を毎年開いています。

6月19日には今泉支店で本年度1回目となるリトミック教室を開催。12組の親子が歌や音楽に合わせて体を動かしたりおもちゃで遊んだり、親子同士で交流しながら楽しい時間を過ごしました。同教室は富士地区のJA支店で全6回開催予定です。



楽器を使って親子でリズム遊び



伊豆の国苺委員会が総会 高品質維持し、販売額前年度比112.5%

伊豆の国苺委員会は6月20日、令和5年度産の総会を伊豆の国地区本部で開きました。令和5年度産販売金額は前年度比112.5%の19億6,697万円で、目標の18億円を大きく上回る好成績となりました。

飯田寿夫委員長は「生産者の品質への意識向上・検査の徹底により、高品質な伊豆の国イチゴの評価を高め、高単価につなげることができた。今後も安全・安心なイチゴを生産していきたい」と話しました。



生産の安定化と産地振興を呼びかける飯田委員長



一次産業の魅力を知って カーネーションで体験実習受け入れ

東伊豆町花卉園芸組合は5月30日、東伊豆町産業団体連絡会が取り組む「地元の農家と学生の援農体験交流事業」に協力し、県立稲取高校のボランティア部員9人の体験実習を受け入れました。

生徒たちは出荷が終わったカーネーションの引き抜き作業のほか、栽培の歴史などを学びました。田村利昌組合長は「今回の体験により、地元の農産物に興味を持ってくれたらうれしい」と話しました。



田村組合長(左)に作業内容を教わる生徒たち



自動航行ドローンでミカン防除試験 防除作業省力化で産地維持へ

JAと県、沼津市、KDDI、全農、経済連は5月22日に自動航行ドローンを使った農薬散布実証試験を始めました。試験期間は3年とし、病害虫の防除期に年6回の散布を行い、効果の確認と検証を行います。

園地の半分以上を急斜面が占め、日当たりと水はけが良い反面、農作業負担が大きく産地の維持が危惧されています。ドローンで新たな防除体系を確立し、産地の維持につなげていきます。



ミカン園地で自動航行ドローンを使い農薬散布



第21期JAふじ伊豆農業大学校開講 野菜栽培の基礎学び、ファーマーズ出荷会員に

御殿場地区営農課は6月11日、同地区生活センターで「第21期JAふじ伊豆農業大学校」のオリエンテーションを行い、今年7人が入講しました。

同学校はファーマーズ御殿場の出荷会員増加を目的に行っているもので、1年生はハウス、2年生は露地での野菜栽培の基礎を学びます。講習は1、2年生それぞれ年間約25回行われ、トマトやダイコン、キュウリなどを栽培します。



JA職員(左)から使用する農具の説明を受ける入講生ら



「うまレタ。」ブランド確立へ 静岡県レタス協議会が販売報告会開く

静岡市で5月21日、静岡県レタス協議会販売報告会が開かれ、三島レタス組合の後藤資東史組合長と高木敦副組合長が出席しました。

市場やJA関係者など41人が出席し、静岡県産レタス「うまレタ。」のブランド化に向けた進捗報告と今後の取り組みなどを協議しました。今後はレタスのリアルタイム生育予想システムも導入予定で、さらなる販売促進、生育効率化を目指します。



あいさつする後藤組合長



「アイランドルビー」生産者が対面販売 来店者からはおいしいと好評

あいら伊豆地区^{そさい}野菜部会ッキングトマト部は6月6日、ッキングトマト「アイランドルビー」の試食販売会を熱海市の量販店で開きました。熱海市と伊東市の特産品としての知名度向上と普及拡大を目的に、稲葉拓也部長が来店者に振る舞いました。

試食をした来店者からは「コクがありトマトが苦手な人でも食べられそう。パスタに使ってみたい」などの声がありました。



アイランドルビーを使ったラ外ウイユを試食する来店者(左)